おたのしみ熱戦譜

文化祭体育レク行事

十月後半から十一月にかけて、文化祭行事のなかで行なわれた各種大会は、かずかずの熱戦や、名勝負（なかには迷勝負もあった）を展開し、二十三日勤労感謝の日の、卓球大会を最後に無事終了しました。

次に、その結果を報告いたします。来年もまた、おたのしみにどうぞ。

秋季野球大会

優勝　和納サンダース
二位　岩室村商工会
三位　岩中Aチーム
三位　岩中Bチーム

村民バスケット大会

優勝　岩中Aチーム
二位　岩中Bチーム
三位　岩室クラブ

村民卓球大会

男子団体
優勝　岩中Dチーム
二位　岩中Aチーム
三位　池上鷲沢竹内組
三位　伊藤高浪村井組

女子団体
優勝　岩中Aチーム
二位　岩中Bチーム
三位　役場チーム

個人の部
青年男子
優勝　八木　正治
二位　鷲沢　幹男
三位　鈴木　正敏
三位　池上　誠

一般男子
優勝　高浪　悟
二位　池　一弘
三位　後藤　昇二

壮年男子
優勝　後藤　哲
二位　佐藤　幸男
三位　稲葉　昭祐

中学男子
優勝　大関　正幸
二位　竹内　博人
三位　田島　義男
三位　鷲沢　稔

中学女子
優勝　宝輪八重子
二位　井田由美子
三位　海津富士子
三位　竹内　弥生

無差別男子
優勝　佐藤　幸男

囲碁将棋大会

囲碁の部
優勝　竹内　保
二位　本間　克己
三位　加藤　俊治

将棋の部
優勝　柏木　昭一
二位　佐藤　幸男
三位　田中　太吉

足のおとろえ目立つ

＜村民体力テスト＞

体育協会と公民館の共催で、十一月三日、体力テストが行なわれました。

秋晴れの好天に恵まれ、折から同時に行なわれた、和納小学校の親子マラソン大会に、かけ持ちで参加する人もあって、なかなかにぎやかな一日でした。

二十七名の参加者は、久し振りの全身運動ということで、談笑のうちにも盛んにファイトを燃やし、各種目のテストに挑戦していました。

テストの種目は、次のように分れています。

・反復横とび
体をすみやかに動かす能力をみる
・垂直とび
瞬間的に強い力を出して運動する能力をみる
・握力
筋肉の力の強さをみる
・ジグザグドリブル
体をたくみにはたらかせる能力をみる
・一五〇〇メートル急歩
強い運動を長く続けられる能力をみる

左の図をごらん下さい。これは参加したA・B・C三人のテスト結果を図で表わしたものです。

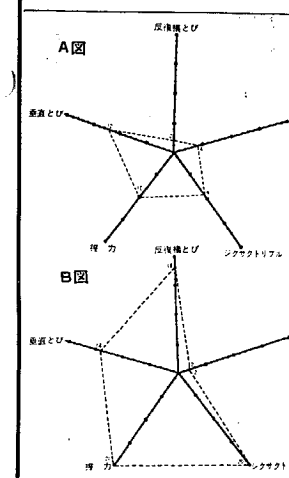
五本の放射線上の得点を結んだ形が、正五角に近くしかも大きければ、その人の運動能力はすぐれていることになります。

A・B・C三人の例ではいずれも、急歩の得点が極端に落ちています。

このように、運動能力に調和を失ったまま過していますと、やがて病的な障害となって、健康を害するおそれがあるわけです。

交通手段が発達すればする程、人びとは歩くことから遠ざかってしまいます。

世の中万事スピード時代といわれる現代ではありますが、自分の足で動くことの大切さを再認識して、お互につとめて歩くように、心がけたいものです。



高島家に西蒲地方最古の検地帳

専門家を調査員に委嘱して軌道にのった村誌編纂事業

本年四月、岩室村誌編纂委員会が発足して以来、基礎的な調査が進められていましたが、十月一日付で、新たに次の方々をメンバーに迎え、本格的な調査活動が進められています。

監修者
新潟大学教育学部
小村　式　教授

調査員
県立興農館高校
中村　義隆教諭
井上　慶隆教諭
県立西川竹園高校
松水　克男教諭
県立燕工業高校
田子　了祐教諭
県立新潟女子高校
本間　恂一教諭
県立新発田商工高校
荻野　正博教諭

広報紙上で、調査員の先生方をご紹介しながら、リレー寄稿をしていただくことにしました。

中村　義隆

本村では、以前より村誌編纂について、三部正彦氏を編纂委員長として資料蒐集などの仕事が進められて来ていました。

このたび、私ども六名があらたに調査員として参加させていただきました。昭和四十六年度末に村誌完成をめざして地元調査員の方々と共に微力をつくしたいものと思います。幸い、この事業の監修者として新潟大学教授の小村式先生があたられ、全般的に指導下さる事になっていますので、私ども調査員も意を強くしている次第です。

戦後、地方史の研究がさかんになり、あたらしい見方で地方の特色ある歴史的発展があきらかにされて来ています。「間瀬郷土史」などもその一つで、貴重な刊行物として知られています。また、戦前刊行されました岩室村誌や和納村誌なども村に残る貴重な資料であります。これらを土台にして合併十周年記念にふさわしい、村内の皆様の将来の発展に少しでも資するものをと意欲をもやしております。

過日、岩室の高島家で、慶長三年の「岩室村検地帳」が発見されました。これは従来までの定説ではこの西蒲地区ではあり得ないものとされ、西蒲地区では、最古の検地帳です。このような新しい史料をも充分活用して、村の先人の労苦をたどり、将来への展望を試みたいものと思います。

今後共、皆様の御支援を心からお願い申します。

告示第三号

昭和四十五年十一月十七日

岩室村老人いこいの家「静閑荘」の使用料収納事務について、地方自治法第一五八条の規定により左記のものに委託したので之を公告いたします。

記

岩室観光開発株式会社
常務取締役支配人
後藤　金芳

インドだより

昭和四十四年九月渡印
日本青年海外協力隊
堀越　仁志（白鳥）

一九七〇・一〇・一五発

こちらインド、ライプール地方でも、新潟県より一ケ月おくれて稲刈りが始まりました。

新潟県では雪解けをまって苗代作りがはじまるのですが、こちらインドでは四月、五月とすべてが焼け死ぬのではないかと思う暑さで、見渡すかぎり枯野原となり室内の涼しい所でさえ四十五度Cというもれつなもの。ベッド、机、椅子から紙、ペンまでがあついという乾期（夏）がすぎ雨が降り出すと稲作がはじまります。雨が降り出しますと気温も三十度C前後にさがり、不毛の地と思われた大地に青々とした草が生えてきます。まったく自然の偉大さにおどろきぬけの雨がありがたく思えて来ます。

雨が降ると農民はいっせいに耕耘作業にとりかかります。ほとんどが水牛を使った旧式のスキで耕耘しております。「日本でも牛でやっているのか？」と聞きますので「トラクターでやるんだ」と云うと「水牛は非常に能率的だから日本へ帰ったらぜひやってみろ。」などといって来ます。この旧式のスキによります耕耘は同じ所を三～四回ないますが、深さ十センチメートルで土がいっこうにこまかくなりません。

この地方では直播が八割以上で田植えは篤農家の間で少し行なわれているにすぎません。もっとも灌漑施設がありませんので、個人でモーターポンプをもっていないと出来ないわけです。苗代は平床苗代で、雨が続けば水苗代、雨が降らないと畑苗代といった状態です。二十五日～三十日苗で主稈葉数五～六葉のものを田植えしております。田植えもやはり雨の降るのを待って行なっております。

本田に、雨が降って水がたまると代かきを行ないます。平らになった所で田植えを行ないます。ランダム植えで、自分の好きかって植えるのです。一株一本づつ親指でさしこんでいくのでどうしても深植えになります。田植後一週間水をぬきます。これでどうしても活着がおそくなります。ようやく活着したかと思うと今度は入るだけ水を入れます。用水路はなく上の田圃から下の田圃へ順次落してくる方法がとられております。

直播の方はと申しますと耕耘したのち肥料と種子を播きます。後は雨の降るのを待つのです。いくら芽出しておいても雨が降らないかぎり発芽して来ません。しかし雨が降ると大きなごろただった土もくだけてたいらになり一日できれいに発芽してきます。この稲がちょうど田植え出来るくらいの大きさになった所で全部耕耘してしまいます。稲はすぐにおきあがって来ますが草が少しおくれます。それでその後二～三回草取りをします。草取りといっても日本の様に這うのではなく大きい草だけぬき取る方法です。病虫害では農薬の散布が行なわれておりますが、どうも農薬と病虫害の種類がちぐはぐになっております。病気であろうと害虫であろうと、何かまいとけばきくだろうくらいにしか考えておりません。この地方はほとんど加里肥料を使っておりません。それでこの前どうも稲がおかしいというので見に行きましたら、これが典形的加里欠乏症状で土壌検定した結果も有効態加里無としいうことでした。ところがその農家では病虫害の農薬六種類を混合してまいているではありませんか。でも農薬が買える農家はしあわせです。ほとんど肥料も買えない農家が多いのですから。

インドで多い病気はイモチ病、白葉枯病、ゴマ葉枯病で害虫では二化めい虫、三化めい虫、ウンカ、ヨコバエ、タテハマキ、ヨトウ虫のほか、一夜にして穂を全部切り落してしまう虫もおります。

農業労働者の賃金はたいへん安く、一日八時間労働で五十円～一〇〇円位です。やはり女の人が少し安くなっております。

稲の生育期間中、牛による食害がたいへん多いのですが、インド人に言わせますと神様が食べたのだからかえって収量が多くなるなどといっております。

稲が出穂しはじめると水田のあちこちに見張り小屋が立ちます。これは昼間はあきかんをガンガンたたいてスズメをおいはらい、夜になると牛が食べに来るのを鎌で刈るのですがこのインドの鎌は切れません。力にまかせてぶった切るようなものです。刈ったものはそのまま一日～二日水田にかわかしておき、大きくたばねて、頭の上にのせたり天びんをつかってかついで作業場まではこびます。

これを足でしごいたり、丸太にたたきつけたり、牛にふませたりして脱こくをしております。皆さん想像出来ますか。これを風選（みに入れて頭の上から少しづつ落すともみはすぐ下におち、わらやしいなはとんでしまう。しかし風が無い時は来るまでまっている）して、麻袋にもみ七十五kgづめにしてライスミールへ出荷するわけです。もみ一kg三十円位だそうです。白米は一kg五十円～七十五円します。

インド人は古米を好みますので金持の家では三年もたった古米を食べているそうです。まずしい人は新米を食べるわけです。日本とまったく反対ですね。日本人とインド人の食みはだいぶちがうと思いますが、私が食べてうまいと思う米はインド人もうまいといいます。これはインドの米の中で比較してのことですが……。

今、真青に晴れた青空のもと猫の手もかりたいほどいそがしい稲刈りのまっさいちゅうです。

故郷のみなさんもお元気で、またおたよりします。

間瀬中学校の卒業生から

学び舎を訪ねて

先日同級生のSさんと、なつかしの学び舎を訪ねてみました。

坂道を登りながら、ふっと在学中の自分を思い出していました。

セーラー服に身をつつみ毎日通った幼い日。いやなことも楽しいことも、みんなこの坂道にぶっつけたものでした。

元気に飛びはねたグランドも、小高い丘も今は荒れ果てて、草がぼうぼうと生えていました。学び舎がなくなるということが、こんなにも淋しいものだとは知りませんでした。

思い出にひたりながら、学び舎に足を踏み入れてみておどろきました。外部の荒れ果てた感じとはうってかわって、見違える程きれいに改造されているではありませんか。

普通教室や特別教室だった部屋には、それぞれ名前がつけられて、五年振りに訪れた私は、とまどうばかりでした。母校がこんなにも変っていようとは、夢にも考えられませんでした。

―中略―

大気汚染だ、公害だと問題になっているこの頃、美しい自然の中で、古びた学び舎が、一般市民の役に立つ施設に生れ変っているのを見て、明日へのファイトがわいてくるのをおぼえました。

この校舎最後の卒業生として、ほんとにうれしく思いました。これであの古い学び舎も、年をとらないですむことでしょう。

最後に、私たちの母校がたくさんの人びとに利用されることにより、岩室村がますます発展するよう、心からお祈りします。

あの道この橋村づくり

役に立ってるたばこ税

村内のたばこ店から買っていただくことにより、村の収入になるたばこ消費税は、四月から九月までの半年間で、五八四万円あまり月平均九十七万円以上になりました。

ご協力を感謝するとともに、今後もいっそう、日常のたばこはもちろん、贈答用にお使いになられるたばこも、是非村内のたばこ店からお求め下さるようお願いします。